

## 会員の広場



### 80年前の出版物から、日本を垣間見る

小長井 孝（東京）

4月の経済倶楽部の会員による自主的な会合である「物申す会」で標記について発表した。幸い参加者から好評を得たので、その概要と感想を簡単に記してみる。なお会について座長の深瀬拡氏が講演録2014年2月号会員の広場で、「50回を迎えた物申す会」と

活動を簡潔に紹介されている（ご参考まで）。父が残した戦前・戦中の書物や雑誌・週刊誌が、実家から多数出てきた。今までその存在は知らなかったが、立ち読み感覚でページを繰ってみた。戦争を知らない私には、大変興味深いものだった。個人的にどう活用するか悩んだが、「物申す会」で紹介することになり、昭和10年前後から今次大戦の日本敗戦までの事象に関して、出版物をひもとき考察を試みた。

時間の制約上これらの一覧と概要をパソコンで作り、それを基に必要な資料の収集・作成を行い、構想を練った。レジュメの内容は、『時代背景・軍縮会議とその影響・戦時中の知識人の発言・当時の広告から世相を感じと

る・帝國海軍艦艇の重大事故・海軍雑誌「海と空」・敗戦Ⅱ海軍の栄光と艦船の消滅（莫大な国富と命が海の藻屑に）・関東大震災と帝國海軍の働き』等々。

日清・日露・第一次大戦と、日本は実態はともかくとしても、負けを知らぬ形で時代を駆け抜け、戦争を避けんとせば戦争の保険たる軍備に金を惜しむべきではない（海軍）という論法で妄動、ついには軍事費が国家予算の49%（大正10年）という正気の沙汰ではない状態に陥った。そして20年後、無謀な第二次大戦を引き起こし、全てが灰燼に帰した。国家指導者の暴走とその責任は論を待たないが、大多数の国民に全く問題が無かった、とは言いい切れまい。

当時を今の尺度で忖度することは必ずしも適切とは思わないが、戦争は絶対にしてはならないは我々共通の決心であろう。最近の不安定複雑な国際情勢を鑑みるに、一層大切なことと思う。今回古い出版物を読み、調べた結果、不勉強とは言うものの知らないことが多々あった。歴史教育は近・現代にもっと力を注ぐべし、との思いを新たに。非戦時下、多数の将兵が理不尽な事故で犠牲になったことも初めて知った（帝國海軍艦艇の重大事故多発）。一方、当時の雑誌・週刊誌に掲載されたさまざまな広告を現在の視点で見ると、時代の変化や科学技術の進歩が読み取られて面白かった。古希から3年、遅まきながら、歴史の勉強を少しやり直したかな…。